

「ものづくりの実力向上」で お客様と社会に貢献します

新日本製鉄(株) 代表取締役社長 三村 明夫

力強く再生しはじめた 鉄鋼業

明けましておめでとうございます。

本年も、皆様のお役に立てるよう社をあげて取り組んでまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

昨年、日本の鉄鋼業界は、メーカーも流通も厳しい需給環境を乗り越え、自らの手で企業の枠を超えた歴史的な再編を実行し、抜本的な合理化・構造改革に取り組み、力強く再生しはじめたと言えます。当社もお陰様で、年度の連結経常利益で1,600億円の見通しが得られるなど、フローの収益では着実な成果を上げることができました。

本年の鉄鋼需給においても、海外では中国の鉄鋼需要が10%を超える成長が見込まれるなどタイトな状況が継続しています。また国内においても、これまで減少していた鋼材需要がようやく底を打つ兆しを見せており、昨年に引き続き鉄鋼業界にとって「追い風」が継続すると考えています。他方で、足下の円高の進展に加え、特に急拡大する中国鉄鋼業の諸問題への対応が急務となっています。



こうした中、本年は、当社の「強み」をさらに活かし、課題を大きく改善していきたいと思ひます。

新日鉄の4つの「強み」をお客様に

当社の「強み」として、私は4点をあげたいと思ひます。全国に立地するお客様への最適なサービスの提供に適した製鉄所および営業拠点の体制を整えていること、国内のお客様とのパートナーシップによって育成された高い技術力・技術開発力を持っていること、世界の主要鉄鋼メーカーとのアライアンスを核にグローバルな視点でユーザーサービスを提供できること、長年のおつきあいの中で培われた、世界に通用する「新日鉄」としての信用力をいただいていることです。

国内のお客様とのパートナーシップ強化の観点から、当社は「グローバル・サプライヤー」を目指し、全世界へ展開する日系需要家向けを中心とした最適供給体制を構築しつつあります。住友金属工業(株)・(株)神戸製鋼所とのアライアンスについても、昨年10月の新日鐵住金ステンレス(株)の設立など着々と成果があがりつつあります。今後は、アライアンスの一つひとつを深化させ、お客様への最適なソリューションにつなげていきたいと思ひます。

こうした強みはすべて、短期間では構築できない、社内外の先輩方から引き継いだ貴重な財産であり、今後これらの強みをさらに伸ばしていきたいと思ひます。

「ものづくりの実力向上」でソリューションを提供します

今年当社が取り組む課題の第一は、技術開発です。新商品開発・プロセス開発に磨きをかけ、技術面でのリーダーシップを発揮し、お客様から絶大な信頼をいただけることが、当社の経営理念の「コア」です。当社の技術開発力は国内外のお客様から高い評価を受けており、世界のトップレベルだと自負しています。今後とも、優れた商品を提供するだけでなく、利用加工技術やソリューションを含めたさらに質の高いサービスの提供に磨きをかけていきたいと思ひます。

第二に、新日鉄グループは鉄事業を中核に幅広い複合事業を推進していますので、豊富なメニューを提案することが可能です。各セグメント、グループ会社の総合力で、お客様に最適なソリューションを提供していきたいと思ひます。

第三に、循環型社会構築への貢献です。当社は、廃プラスチックをはじめとした社会や他産業で発生する副産物を循環資源として積極的に活用しています。今後さらに鉄鋼業のポテンシャルを最大限に活かして貢献を図りたいと思ひます。

地球温暖化対策については、環境税をはじめとする地球温暖化対策についての経済的手法の導入検討が開始される予定となっています。当社としては、自らの削減目標を確実に達成するための取り組みを継続することはもちろんのこと、他の業界と

も連携を強化し、引き続き日本鉄鋼業が競争力を維持・強化でき、国内で引き続き生産できる環境を整備できるように、環境税導入阻止に向けた取り組みを強化していきたいと思ひます。

そしてこれらの活動すべての基盤である、安全・防災への取り組みを強化します。安全・防災の基盤である「ものづくりの実力向上」を再点検します。重大災害・事故が多発したことを真摯に反省し、貴重な経営基盤である人的資源の損失を防止するため、私自身が先頭に立ち「安全は全てに優先する」という理念の下、安全管理・防災体制のさらなる充実を図ります。

当社は、本年も「ものづくりの実力」に磨きをかけ、お客様と社会に最大限の貢献をしていきたいと思ひます。今後ともご理解とご支援のほど、宜しくお願ひ申し上げます。

